

## 5. 学会事務局から

### 1) 前事務局から

#### 1996年度第5回理事会

日時 1996年10月25日(金) 12時半～13時半

場所 山形県南陽市／ハイジアパーク南陽

出席者 (理事) 相川、青柳、荒穂、池上、大川、大沼、大野、黒柳、小林(一)、  
酒井(恵)、坂本、庄司、永野、長谷川(昭)、東、松岡、松村、矢野、  
山本(正)

#### 1996年度日本村落研究学会総会

日時 1996年10月25日(金) 夕刻

場所 山形県南陽市／ハイジアパーク南陽

議長 菅野正

#### I 報告

##### 1. 1996年度事業報告、会員動向(小林理事)

## 1) 理事会の開催

第一回（1995年11月19日、亀岡市京都リクリエーションセンター亀岡ハイツ）

新理事・監事（会計監査）の決定、会長・副会長の選任、各委員会委員長の選任、各委員会の構成、学会奨励賞ワーキンググループの設置。

第二回（1996年1月6日、中央大学駿河台記念館）

各委員会委員の選出、研究委員会の本年度活動予定（大会のセッション・テーマ、候補テーマ、候補コーディネーター）、編集委員会の本年度活動予定（『年報』編集、『ジャーナル』編集）、国際交流委員会の本年度活動予定（IRSA、アジア農村社会学会準備会）、学会奨励賞ワーキンググループの活動予定、大会日程、前回大会事務局からの寄付。

第三回（1996年4月27日、東北大学大学院情報科学研究科）

研究委員会（大会テーマ・セッション、非会員への「通信」送付、インタレスト調査）、編集委員会（『年報』編集、『ジャーナル』編集、『ジャーナル』の広告）、国際交流委員会（IRSA大会への参加）、学会奨励賞ワーキンググループ（運用規則および運用細則）、今年度大会（日程、会場、参加費用）、会員異動、学術会議との連絡。

第四回（1996年9月14日、中央大学駿河台記念館）

研究委員会（研究会の開催、大会テーマ・セッション）、編集委員会（『年報』編集、『ジャーナル』編集）、国際交流委員会（IRSA大会報告、アジア農村社会学会、IRSA大会開催ワーキンググループの設置）、学会奨励賞ワーキンググループ（運用規則および運用細則）、今年度大会準備状況、留学生会員の帰国後の会費、アジア農村社会学会評議員、学術研究団体登録、次期事務局。

第五回（1996年10月25日、ハイジアパーク南陽）

総会準備、IRSA大会開催について、学会奨励賞について、次期事務局および次期大会事務局について。

## 2) 地区研究会の開催

北海道地区研究会（開催せず）

東北地区研究会（1996年6月22日、東北大学大学院情報科学研究科、12名）

報告者：三浦 俊二「中山間地域における高齢化と地域資源のあり方について」  
五十鈴川寛「借金棒引き事件その後のむら—村山市大久保—」

関東地区研究会（1996年3月13日、明治大学大学院、26名）

報告者：李 国慶「日本農村の経済変動と社会的安定性—長野県諏訪郡富士見町における産業構造と社会構造の変容—」

柄澤 行雄「中国の「食糧問題」と農村・農民」

関東地区研究会（1996年9月28日、明治大学大学院）

審評研究会：山本・高橋・蓮見編「沖縄の都市と農村」

中部・近畿地区研究会（1996年6月8日、同志社大学徳照館、10名）

報告者：山本 正和「地域の変動と家族（世帯）構成の動向について—愛知県の工業化に関連して—」

橋本 和幸「コミュニティ・ロスト？—校下と限定的コミュニティー—」

瀬戸内地区研究会 (開催せず)

九州地区研究会 (1996年4月4日、九州大学文学部社会学研究室、7名)

報告者：木下 謙治「村落研究をめぐる若干の問題」

### 3) 研究通信の発行

第182号 (1996年3月12日)

第183号 (1996年6月15日)

第184号 (1996年8月20日)

第185号 (1996年10月5日)

### 4) 会員名簿の発行

すでに会員名簿は印刷を終えており、1996年度大会後に会員に送付する予定であることが報告された。

### 5) 会員数

昨年度大会時の正会員数 374名

今年度会員増減数 22名

新入会員29名、退会者6名、逝去者1名

今大会時の正会員数 396名

その他 購読会員数 5名

### 2. 会計報告(水上会員)、監査報告(高田会員)

事務局より、1996年度の会計収支決算について説明があった。会計監査の高田会員より、監査の結果適正に処理されているとの報告があり、別掲のとおり決算が承認された。(決算報告は、この「通信」17頁に掲載)。

### 3. 研究委員会報告(相川理事)

1996年度大会のテーマ・セッションについては、「有機農業運動の可能性と課題---農村の再生、都市との連携」というテーマで、明日10月26日に開催予定であることについて報告がなされた。

1996年度は大会テーマ・セッションにあわせて、研究委員会主催の研究会を9月におこなったことについて報告がなされた。

### 4. 国際交流委員会報告(鳥越会員)

第9回国際農村社会学会大会が1996年7月21日から26日にルーマニアのブカレストにて開催され、村研からは40名弱の会員の参加があったことについて報告がなされた。また、2000年の大会開催について、日本が期待されていることについて報告された。

アジア農村社会学会が、第9回国際農村社会学会大会時に正式に発足したことが報告された。会長は韓国から選出され、副会長の一人を河村能夫会員がつとめることとなり、また、評議員を村研から選出する必要のあることが提起された。

### 5. 編集委員会報告

#### 1) 『村研年報』編集委員会(庄司理事)

『村研年報』32号が刊行されたことについて報告がなされた。

#### 2) 『村研ジャーナル』編集委員会(熊谷ジャーナル編集責任者)

1996年度は『村研ジャーナル』4号と5号を刊行したことについて報告がなされた。また、現在6号を編集中であり、1997年3月には刊行予定であると報告された。

『村研ジャーナル』の刊行助成を文部省に申請していたが、1996年度は受け付けられず、1997年度に再度申請を予定していることについて報告がなされた。

『村研ジャーナル』7号の投稿申し込みを11月中旬まで募集することについて報告された。

#### 6. 学会奨励賞ワーキング・グループ報告（池上理事）

これまでの検討の経緯について説明がなされた。

## II 議題

### 1. 1997年度事業計画、予算案について

1997年度は、村研通信を4回発行し理事会を5回開催する予定であること、地区研究会を各地区で1回開催することなどが事務局より説明され、別掲の1997年度予算案が承認された。（予算案は、この「通信」18頁に掲載）。

### 2. 次期事務局について

次期事務局について、武田共治会員、玉真之介会員をはじめ弘前大学の会員にお願いする案が長谷川会長より提案され、了承された。武田会員より受諾のあいさつがされた。

### 3. 次期大会事務局について

次期大会事務局について、田野崎昭夫会員をはじめ中央大学の会員にお願いする案が長谷川会長より提案され、了承された。田野崎会員と吉澤四郎会員より受諾のあいさつがされた。

### 4. 研究委員会関係

1997年度大会テーマ・セッションのテーマを現代日本の山村再生問題とし、コーディネーターを大野晃会員と松岡昌則会員にお願いするとの提案がなされ、了承された。

1998年度大会テーマ・セッションのテーマとコーディネーターについて会員にアンケート募集したところ、本城昇会員より農山村の高齢化と介護福祉というテーマで1件の申し出があった。1998年度大会テーマ・セッションについては、今後さらに検討することとなった。

1996年度は大会テーマ・セッションにあわせて、研究委員会主催の研究会を9月におこなっており、1997年度も同様の研究会を開催したいとの提案がなされ、了承された。

現在農水省は新農業基本法の策定準備を進めており、その農村部会に対する村研の情報収集および意見申し入れの機会として、農村部会の行政官との研究報告会を関連学会と共同で1997年1月から3月ごろに開催したいとの報告があり、了承された。

自由報告の申し込みが増加しており、セッションの組み方をあらためて検討する必要があることが提起された。

### 5. 『村研年報』編集委員会関係

『村研年報』の特集の編集や掲載論文の決定については、大会テーマ・セッションを優先しながらも、今後、編集委員会が主体的に判断する余地を作る必要があることが提起され、意見の交換がおこなわれた。

自由投稿論文については、『村研年報』を会員に開かれたものとするために、今後さらに検討の必要なことが提起された。

## 6. 学会奨励賞について

学会奨励賞ワーキング・グループの池上理事より、日本村落研究学会賞運用規則（案）、日本村落研究学会賞運送規則細則（案）、日本村落研究学会賞推薦状の様式（案）が提案され、審議をへて承認された。

## 7. 国際農村社会学会大会開催について

2000年の国際農村社会学会大会の日本での開催が村研に期待されていることについて、この件に関するワーキング・グループの座長 細谷会員から説明があり、さらに、鳥越皓之会員、高橋明善会員より、これまでの経過について補足説明がおこなわれたのち、それをうけて、審議がなされた。可否の決定の期限が1996年12月末と切迫していること、今大会で意見を集約することは難しいこと、大会参加会員に大会期間中アンケートをお願いしたいことなどが提起された。審議の結果、国際交流委員会が今大会時のアンケートの結果を考慮しつつ財政や人的資源の問題などを検討し、それを理事会に提起し、理事会にて最終的に決定することが承認された。

## 8. アジア農村社会学会について

アジア農村社会学会の評議員の選出が村研に要請されていることについて、事務局より説明がおこなわれた。この件については、あらためて理事会にて検討することが了承された。

## 9. その他

留学生会員が帰国したのちの会費負担の軽減が提起されていることについて、事務局より説明がおこなわれた。意見交換の結果、規約を改正するのではなく、適宜申し込んでもらい、それを個別に理事会で検討するかたちをとることが承認された。

## 2) 新事務局体制(弘前大学)について

新年度の事務局体制は弘前大学の下記の会員で分担して行うことになりました。

	研究室	自宅	電子メール
玉真之介(庶務統括)	0172-39-3929		stama@cc.hirosaki-u.ac.jp
	Fax. 0172-39-3831		
山下祐介(会計)	0172-39-3215		yama@cc.hirosaki-u.ac.jp
森川辰夫(庶務)	0172-39-3435		
佐藤三三(庶務)	0172-39-3474		
渋谷長生(庶務)	0172-39-3929		
武田共治(理事兼任)	0172-39-3933		kt3933@cc.hirosaki-u.ac.jp

\*会員との連絡窓口代表は玉真之介、会費等は山下祐介へお願いします。

## 3) 『年報 村落社会研究』普及のお願い

『年報 村落社会研究』は、農文協のご厚意で出版していますが、目安となる販売部数にまだ届いていません。会員の皆さん自身を含め、身の回りの方や研究期間、図書館などへの普及への

ご協力をお願いします。

#### 4) 留学生会員の帰国後の会費軽減制度について

留学生会員で、帰国後の会費の軽減を希望する方は、申し込み書を学会事務局(玉真之介宛)まで送付して下さい。適宜、理事会で審議いたします。

申し込み書は、所属、氏名、連絡先住所、電話番号、理由が記してあれば、形式は問いません。

#### 5) 理事会について

##### 1997年度第1回理事会

日時：1996年10月26日(土) 12時25分～13時25分

場所：ハイジアパーク南陽

参加者：(理事) 相川、青柳、荒樋、池上、大沼、黒柳、小林、坂本、庄司、長谷川、東、  
松岡、永野、矢野、山本  
(事務局) 武田

##### 1997年度第2回理事会

日時：1996年12月7日(土) 14時～17時

場所：明治大学大学院510号室

参加者：(理事) 相川、青柳、荒樋、大川、大沼、黒柳、庄司、長谷川、東、酒井、徳野、  
松岡、矢野、山本  
(事務局) 武田

事務局報告の後、①国際農村社会学会開催の可否について、②学会奨励賞選考委員選出について、が審議され、研究、年報、ジャーナルの各委員会から報告されました。内容は、「各委員会から」に含まれています。

##### 拡大理事会予定

日時：1997年2月8日(土) 13時～

場所：明治大学大学院510号室

##### 第3回理事会予定

日時：1997年4月26日(土) 14時～

場所：弘前大学文京荘会議室